

## 日本現代中国学会第 76 回全国学術大会のご案内

会員各位

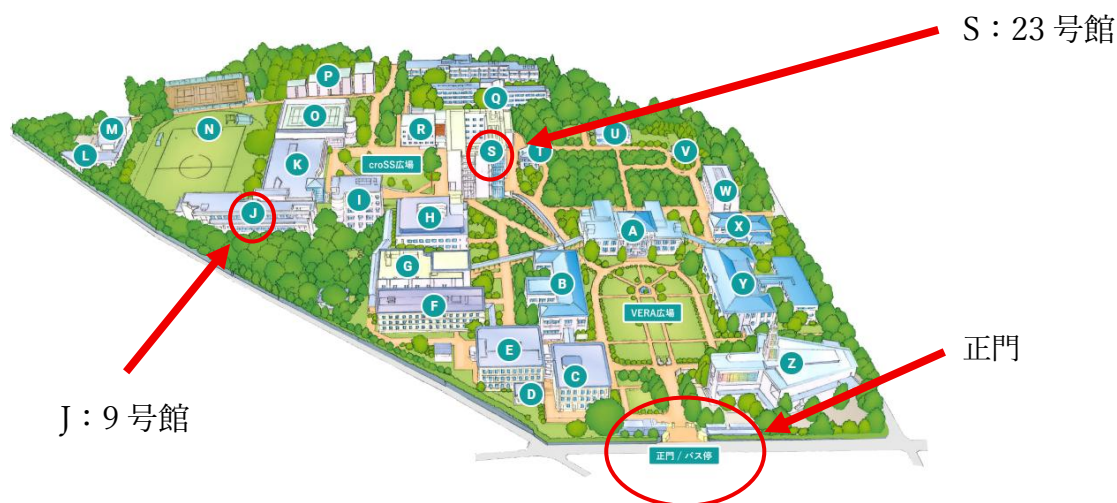
2026 年の日本現代中国学会全国学術大会は、5 月 30 日（土）と 31 日（日）の両日、東京女子大学（東京都杉並区）において開催されます（対面のみ）。

今年の共通論題のテーマは「毛沢東没後 50 周年、毛沢東時代を改めて考える」です。共通論題のほか、各地域部会のご協力により 6 つのテーマ分科会と 12 の自由論題報告からなる 4 つのセッションを開けることとなりました。良質で活発な討論が行われること期待するとともに、多くの会員の皆さまのご参加をお待ち申し上げております。ご参加にあたっては、事前の参加登録をお願いいたします（後述）。

今回は会場の都合により、アルコールを提供する懇親会は中止する代わりに、共通論題終了後に簡単な茶菓のみをご用意した「討論・懇談セッション」を設けます（参加費無料）。登壇者との討論や、研究仲間との旧交を温める場として是非ご参加いただければ幸いです。終了後は、西荻窪駅、吉祥寺駅まで出れば飲食店が多数ございます。

会場：東京女子大学 23 号館および 9 号館 (<https://www.twcu.ac.jp/main/access/index.html>)

〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1





## 大会1日目 プログラム

### 2026年5月30日(土) 共通論題

11:30～	受付開始(東京女子大学23号館1階)
12:00～	2025年度総会(23号館1階23101教室)
総会終了後すぐ	2026年度全国理事会(9号館1階9105教室)
14:00～17:00	共通論題(23号館1階23101教室)
17:15～18:30	討論・懇談セッション(11号館1階小ホール)

※持ち込まれたお弁当などのご飲食は9号館9101教室でお願いします。

### 2025年度総会(23号館1階23101教室:zoom中継あり)

会員総会は会場とオンラインのハイブリット形式で開催します。総会のzoom会議室情報は事務局から4月2日に送信したメール(件名「日本現代中国学会2025年度会員総会の開催(5月30日(土)12:00～)」)に記載の情報をご参照ください。

### 2026年度全国理事会(9号館1階9105教室:zoom中継あり)

理事会は総会終了後、別室にて会場とオンラインのハイブリット形式で開催します。詳細は何彦旻事務局長より4月2日に理事宛に送信されたメール(件名「【日本現代中国学会】2026年度全国理事会の開催について(要対応)」)をご参照ください。

## 共通論題プログラム (23号館1階23101教室)

### 毛沢東没後50周年、毛沢東時代を改めて考える

今大会の共通論題は、「毛沢東没後50周年、毛沢東時代を改めて考える」です。2026年は、毛沢東死去からちょうど50年の節目の年(=文化大革命の正式発動60周年)にあたります。過去半世紀の間、とくに1980年代に中華人民共和国で改革開放政策が本格化して以降、本学会の研究活動にかかわる資料の公開や学術交流は大いに発展しました。中国語圏はもとより、日本を含む諸外国の学界でも、毛沢東の個人研究をはじめ、毛沢東が生きた近現代中国の歴史、政治、経済、文化、社会、対外関係などの多方面にわたり、多くの優れた研究成果が積み重ねられてきました。

しかし、2012～13年の習近平政権の登場を一つの契機として、研究者をとりまく状況は大きく変化しました。中国国内では、国家安全保障の名目のもと、当局による言論統制が以前にも増して強まっています。新冷戦とも称される米国と中国の対立激化とも相俟って、研究者やビジネスパーソンは、以前に比べて安心して中国を訪問したり、現地での各種調査を実施したりできなくなりました。日本をはじめ各国社会でも、特定の国・地域を敵視する排外主義の国民感情も広まっています。

こうした複合的要因により、本学会の名称に掲げられた現代中国研究も、学問の自由と学問の独立がある種の危機に直面しているように思います。「第二の毛沢東」とも評される習近平の政権担当期間において、冷戦期のような〈分断の時代における現代中国研究〉の状況がふたたび現出しないという保証は、残念ながらありません。

以上のような現実を念頭に置きながら、今年の共通論題では、〈かつて実在した分断の時代の現代中国研究〉が十分に捉えきれなかった毛沢東時代の実相について、歴史、政治、社会、文化の各方面から現段階における研究の到達点を改めて確認するとともに、それら最新の知見を踏まえた今後の研究活動の方向性を展望したいと考えます。そのことは、毛沢東時代という過去の再考にとどまらず、習近平時代の現在と未来を展望するうえでも、歴史的視点を踏まえた重要な論点や分析の視座を得るための手がかりを提供するでしょう。

本共通論題では、毛沢東時代それ自体を直接に体験していない、あるいはほとんど実見していない若手・中堅・ベテランの方々に、報告者や討論者として登壇をお願いしました。研究者の世代の面でも、毛沢東時代の相対化を図りつつ、フロアとの質疑応答や討論では、当時の時代的雰囲気を感じ知悉した大ベテランの方々と丁々発止のやりとりを期待しています。

まず、石川禎浩会員から基調報告的位置づけとして、政治史を中心に毛沢東時代に関する全般的な総括を行っていただきます。次に、社会・文化・外交について鄭浩瀾会員、大野陽介会員、大澤武司会員から、各分野の研究潮流と自身の研究活動に基づいて毛沢東時代を振り返ってもらいます。これらの報告に対し、高原明生会員と菅原慶乃会員からコメントをいただき、フロアとの質疑応答を含むより大きな議論へと接続していくことを期待します。

司会・趣旨説明：

14:00～14:10 鈴木隆（大東文化大学）

第1部 報告次第：

14:10～14:35 基調報告 石川禎浩（京都大学）

「師表としての毛沢東：歴史と向き合う」

14:35～14:55 社会 鄭浩瀾（慶應義塾大学）

「地籍整理としての土地改革：いくつかの問題提起」

14:55～15:15 文化 大野陽介（大阪公立大学）

「環流する劇団：中華人民共和国建国後の農村巡回公演を中心に」

15:15～15:35 外交 大澤武司（福岡大学）

「毛沢東の対日外交思想の呪縛：「二分論」と「軍国主義復活」批判」

15:35～15:50 休憩 (15分)

## 第2部 討論

コメント：

15:50～16:00 菅原慶乃 (関西大学)

16:10～16:20 高原明生 (東京女子大学)

16:20～17:00 質疑応答・全体ディスカッション

17:15～18:30 討論・懇談セッション (11号館1階小ホール)

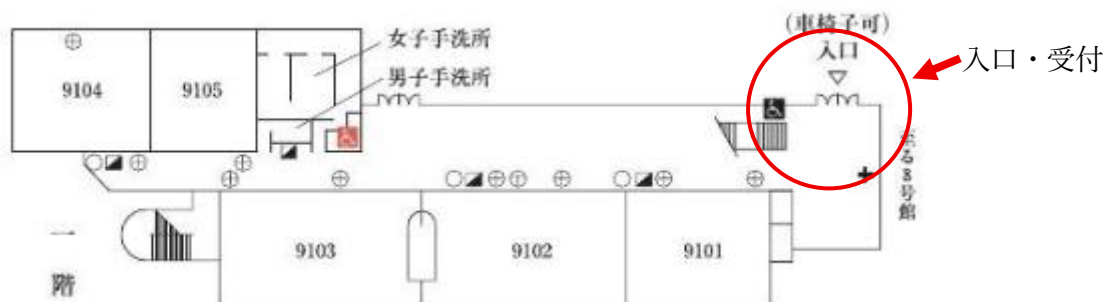
## 大会2日目 プログラム

### 2026年5月31日(日) 自由論題・テーマ分科会

9:30～	受付 (東京女子大学9号館1階)			
場所	9102 教室	9103 教室	9104 教室	9105 教室
午前の部 10:00～12:00	分科会1： 文学	分科会2： 香港(1)	自由論題A： 地域史・地域経済	分科会3： 歴史(1)
午後の部① 13:00～15:00	自由論題B： 映画	自由論題C： 歴史・思想・教育	分科会4： 歴史(2)	(なし)
午後の部② 15:15～17:15	自由論題D： 文学	分科会5： 香港(2)	分科会6： 経済・社会	(なし)

※持ち込まれたお弁当などのご飲食は9号館9101教室でお願いします。

## 9号館案内図



### 自由論題・テーマ分科会プログラム (9号館1階)

午前の部 10:00~12:00

#### 分科会1【文学】戦後東アジア文学における身体・喪失・恋愛をめぐる想像と語り

企画責任者：松村志乃（近畿大学）

司会：林麗婷（龍谷大学）

報告者：

・松村志乃（近畿大学）

「建国期の文学は身体をいかに想像したか——楊沫『青春之歌』、茹志鵬「静静的産院里」、『白毛女』を中心に」

・鄭洲（立命館大学）

「映画受容と恋愛の実践——林海音『曉雲』における越境的感情の形成」

・藺豪（神戸大学・院）

「死者と生者の声——郭松棻の小説における未亡人叙事」

討論者：

・三須祐介（立命館大学）

## 分科会2【香港(1)】2020年代香港の変容

座長：倉田徹（立教大学）

報告者：

・安藤丈将（武蔵大学）

「国安法後の民主化運動のゆくえ—分析手法からの再検討」

・澤田ゆかり（東京外国語大学）

「香港の社会福祉における NGO の役割：ポスト国安法時代の挑戦」

・萩原隆太（芦屋大学）

「『国家安全』と『法治』の交錯：2026年『香港国家安全白書』が示すもの」

討論者：

・遊川和郎（亜細亜大学）

・但見亮（一橋大学）

## 自由論題A《地域史・地域経済》

座長1：木村自（立教大学）

・肖童（鹿児島大学・院）

「長江中流域を見る眼」

・哈木格図（広島大学）

「蒙古連盟自治政府の樹立過程再考」

座長2：大橋史恵（お茶の水女子大学）

・葛倩宏（関西大学・院）

「貴州省における国有企業依存の現状と将来への課題」

**分科会3【歴史(1)】** 近代中国における翻訳事業——とくに日本との関連を中心に

座長：孫安石（神奈川大学）

報告者：

・施詩懷（千葉大学）

「近代中国における日本語教育と翻訳事業——上海東文学社を中心に」

・董令徳（神奈川大学・院）

「近代中国における日本農業知識の輸入——新学会社と『实用養鶏全書』を中心に」

討論者：

・見城悌治（千葉大学・非会員）

午後の部①13:00～15:00

**自由論題B《映画》**

座長 西村正男（関西学院大学）

・趙晟（大阪公立大学）

「北京から済南へ：済南の真光映画館」

・陳琪栄（大阪公立大学）

「小説から映画へ、そして再び小説へ—映画化を経た『霸王別姫』映画小説におけるイメージの変容—」

・張宇博（早稲田大学）

「台湾で語られる香港の物語」

## 自由論題 C 《歴史・思想・教育》

座長 1：水羽信男（広島大学・名誉）

・郭曉英（中央大学・院）

「1940年代における呉晗の同時代認識」

・劉承衛（筑波大学・院）

「『自由中国』知識人の自由主義論」

座長 2：阿古智子（東京大学）

・武小燕（名古屋市立大学）

「香港の中学校における歴史教育の一考察」

## 分科会 4 【歴史(2)】 歴史のなかの人間：中国革命と社会主義を振り返る

企画責任者：周俊（京都大学）

司会：角崎信也（一般財団法人霞山会）

報告者：

・周俊（京都大学）

「中国共産党の夫人政治：革命と愛を生きた女たちの悲喜劇」

・黄喜佳（武蔵野大学・非会員）

「西北局集団の役割からみた毛沢東時代の中央・地方関係」

・南和志（大阪大学・非会員）

「毛沢東時代末期における人民外交と中国革命の終焉」

討論者：

- ・李昊（東京大学）
- ・比護遥（金沢大学・非会員）
- ・横山雄大（同志社大学）

#### 午後の部②15:15～17:15

#### 自由論題D《文学》

座長 塩旗伸一郎（駒澤大学）

- ・山本範子（北星学園大学）

「韓松の「仏性」と「サリンジャーと朝鮮人」を読む」

- ・朱力（中央大学）

「閻連科作品における抒情性—その表現の形態と変容—」

- ・蔵田直美（金沢大学・院）

「中国漫画におけるノスタルジア」

#### 分科会5【香港(2)】形作られる「香港」：香港現代史の構築に向けて

座長：倉田明子（東京外国語大学）

報告者：

- ・何昊林（立教大学・院）

「香港の独自対外関係の展開：1961～1975年繊維取極交渉を中心に」

- ・瀬尾光平（大月短期大学）

「“看板のジャングル”をめぐる統治—戦後香港における景観問題と都市空間の公共性」

- ・ 銭俊華（東京大学）

「政治的主体から文化的主体へ——香港と『香港文学論』の再考」

討論者：

- ・ 村井寛志（神奈川大学）
- ・ 古泉達矢（金沢大学）

#### 分科会 6【経済・社会】 中国的福祉社会への道

座長：中川涼司（立命館大学）

報告者：

- ・ 中川涼司（立命館大学）

「東アジアの経済発展レジーム・福祉レジームと中国的福祉社会」

- ・ 楊秋麗（京都橘大学）

「中国社会保障制度の構築と国民皆年金への接近」

- ・ 畢麗傑（中京大学）

「中国の高齢化と持続可能な高齢者介護システムの構築——上海市浦東新区等の高齢者介護施設の事例を通じて——」

- ・ 任泰然（立命館大学）

「中国高齢者介護システムの郊外都市への拡張」

討論者：

- ・ 澤田ゆかり（東京外国語大学）

## 大会実行委員会からのご案内

- ・会場校の入構管理の関係上、事前の参加申し込みをお願いいたします。 5月14日(木)までに以下の google フォームを通じてご登録ください。

### 【大会参加申込フォーム】

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdhsEA5P645MoUdd4rIJek1guEg2LRQYiNROPewYYPMV982qA/viewform?usp=dialog>

※事前登録があれば当日正門の守衛所での確認がスムーズになるためご協力お願いします。

- ・報告要旨集、報告論文、資料などは大会の Google ドライブに格納し、各自ダウンロードしていただきます。ドライブの URL は会員 ML にてご案内いたします。開催校からの紙媒体での資料配布、端末の貸し出しはございません。
- ・会場は eduroam でインターネット接続が可能です。eduroam のアカウントをお持ちでない方で、ゲスト用 wi-fi の使用を希望される方は、上記参加申し込みフォーム内より登録をお願いします。**事前登録がない場合、当日の申請は先着順**につき、ご希望に添えない場合がございます。
- ・当日、東京女子大学に到着されましたら、5月30日(土)は23号館1階、31日(日)は9号館1階の受付にお越しください。名札を作成いただきますので、名刺がある方はお持ちください。
- ・5月30日(土)は23号館1階、31日(日)は9号館1階廊下にて、中国関係書店による書籍の出張販売を予定しています。是非ご利用ください。
- ・宿泊施設についてはご自身で早めにご予約ください。会場最寄りの西荻窪駅へはJR中央・総武線**各駅停車**または東京メトロ東西線でお越しいただけます。
- ・キャンパスへの車両入構は制限されています。徒歩または公共交通機関をご利用ください。
- ・キャンパス周辺の飲食店は少なく、当日は学内の食堂も閉まっております。近くにコンビニは3軒ございます。会場でのご飲食は9号館9101教室をご利用ください。

- ・ゴミは大学のゴミ箱ではなく、大会実行委員会が設置したゴミ袋に捨ててください。液体など処理の難しいものはお持ち帰りくださいますよう、ご協力をお願いいたします。
- ・東京女子大学構内は全面禁煙です。

日本現代中国学会第 76 回全国学術大会

実行委員長 家永真幸

企画委員長 石塚 迅

お問い合わせ先：genchu.kanto[アットマーク]gmail.com

[アットマーク]を@に変えてください

#### 託児施設ご利用時の補助について（再掲）

大会実施に際し、学会から託児補助をおこないます。会場校に託児施設はございません。会員ご自身で手配された有料託児施設をご利用される場合で、事前にお申し込みをいただいた方に限り補助を支給いたします。

補助金額はお子様お一人一日あたり 5000 円を上限とした実費払いとなります。補助金には限りがあるため、登壇者かつ非有職者の方を優先、先着順を原則として支給します。期限内にお申し込みいただいても、支給できない可能性がございますので予めご了承ください。

補助をご希望の方は 2026 年 5 月 20 日（水）までに、以下宛にメールにてお申し込みください。その際に、件名は「託児施設利用に伴う補助申請」とし、本文内に**利用施設名と所在地、利用日、利用時間**を必ず明記ください。なお期限を過ぎた場合は、対応いたしかねます。

申込先：熊倉 潤（大会実行委員） kumakura[アットマーク]hosei.ac.jp

[アットマーク]を@に変えてください